

・5分前着席を心がけましょう

司式 熊田雄二牧師

前 奏

開 会 招 詞

* 賛 美 歌 13:1 よろずのもの とわにしらす

万のもの 永遠に続らす 御父よ

今 恵みを下したまえ 御名をほむる我らに アーメン

* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈 禱 書 2 (詩編51編)

神よ、わたしを憐れんでください。御慈しみをもって。深い御憐れみをもって、背きの罪をぬぐい去ってください。わたしの咎をことごとく洗い、罪から清めてください。わたしは咎のうちに産み落とされ、母がわたしを身ごもったときも、わたしは罪のうちにあったのです。

わたしを洗ってください。雪よりも白くなるように。神よ、わたしの内に清い心を創造し、新しく確かな霊をさずけてください。救いの喜びを再びわたしに味わわせ、自由の霊によって支えてください。主よ、わたしの唇を開いてください。この口は、あなたの賛美を歌います。主イエス・キリストの御名によって。アーメン。

罪の赦しの宣言

十 戒 祈 禱 書 4

1. あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
2. あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
3. あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰っしないではおかない。
4. 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
5. あなたの父と母を敬え。
6. あなたは殺してはならない。
7. あなたは姦淫してはならない。
8. あなたは盗んではならない。
9. あなたは隣人について偽証してはならない。
10. あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。

(出エジプト20、申命記5)

* 賛 美 歌 36:1 十字架のもとぞ

十字架のもとぞ いと安けき 神の義と愛のあえるところ

嵐吹く時のいわおの陰 荒野の中なる我が隠れ家 アーメン

公 同 の 祈 禱 祈 禱 書 24 救 済 史 祈 禱 ⑤ ダビデ 契 約

あわ ぶか しゆ かみ すく やくそく く かえ やくそく たみ
憐れみ深い主なる神さま、あなたの救いの約束は、たびたび繰り返され、約束の民がカナン
ち みちび おう た かれ けいやく むす しそん えいえん おうぎ つ もの
地に導かれてから、ダビデを王として立て、彼と契約を結び、その子孫から永遠の王座に着く者
で やくそく
が出ることを約束されました。

あわ と かみ やくそく たみ ぐうぞうれいはい かたむ とき つぎつぎ よげんしゃ
憐れみに富んでおられる神さま、あなたは、約束の民が偶像礼拝に傾いた時、次々と預言者を
おく たみ て ゆだ めく
送られましたが、かたくなな民はついにバビロンの手に委ねられました。しかし、あなたは、恵
のこ もの せかいし げきどう なか ささ かれ じゆなん たいけん もち よげん ち え もくし
みによって、残れる者を世界史の激動の中で支え、彼らの受難の体験を用い、預言と知恵と黙示
やくそく すく めし じゆなん かみ ち え えいこう ひと こ けいやく ししや たいぼう
とによって、約束の救い主を、受難のしもべ・神の知恵・栄光の人の子・契約の使者として待望さ
せられました。

すべ しゆ おう じつげん ところ
これら全てが、わたしたちの主であり王であるイエス・キリストにおいて実現しことを、心か
かんしや
ら感謝します。(サムエル下7、イザヤ52~53、ダニエル7、マラキ3、「聖書」一)

献 金 (黒)教会活動 (赤)神学研修所 70
今ささぐるそなえものを 主よ きよめて うけたまえ アーメン

聖書朗読 サムエル記上17章31 - 47節 (旧約聖書 4 5 6 頁)
説教・祈禱 「ダビデとゴリアト」 熊田雄二牧師

* 賛美歌 53:1 立てよ いざ立て
立てよ いざ立て 主のつわもの 見ずや御旗のひるがえるを
全てのあだを滅ぼすまで 君は先立ち行かせたまわん アーメン

* 主の祈り 祈禱書1
てん われ ちち
天にまします我らの父よ
ねが み な
願わくは御名をあがめさせたまえ
みくに き みこころ てん ち
御国を来たせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ
われ にちよう かに きょう あた
我らの日用の糧を 今日も与えたまえ
われ つみ おか もの われ ゆる つみ ゆる
我らに罪を犯す者を我らが許すごとく 我らの罪をも許したまえ
われ こころ あ あく すく だ
我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ
くに ちから さか かぎ なんじ
国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

* 頌 栄 67主イエスの恵みよ
主イエスの恵みよ 父の愛世よ 御霊の力よ ああ御栄えよ アーメン

* 祝 禱
後 奏 (黙禱)
報 告

I C S 教師養成講座から

2013年からC S 教師養成講座が行われるようになって7年になります。今年は新型コロナウイルスの影響で出来ていません。二ヶ月に一度、第3主日か第4主日の午後、30分から1時間で行なうものです。内容は、教会学校教師の心得、聖書の契約構造、教理体系、話の作り方、発声発音練習、分級と牧会などです。

牧師が担当するのは、聖書の旧新約の契約構造、ウエストミンスター信条の教理体系、そして話の作り方です。毎年だいたい同じ話になりますが、毎年、何か少し変化を加えて来ました。きょうは、話の作り方に関して、私の宿題として残っていたことを、お話しします。

話の作り方は、各自それぞれ与えられたタラントンを用いること、自分の特技や得意技を使うこと、それから基本的な構成を前半後半の二部構成か、序論本論結論の三部構成か、四コマ漫画のように起承転結の四部構成かでまとめるようにすること、そのためには、場面を二つか三つか四つにすること、それ以上多くすると伝わりにくくなることを、何回か話しました。

ここ3～4年年は、スリルとサスペンス、ミステリーについて話してきました。そして去年、その続きでカタルシスについて話す予定だったのですが、私の病気でできませんでした。今年世界的疫病で、できていません。そこで、礼拝は生命シリーズの役員誓約事項の学びが一通り終わったので、この宿題をしておくことにしました。

スリル、サスペンス、ミステリー、カタルシスについて

スリル、サスペンス、ミステリー、カタルシスというのは、話を聞く側を惹きつける技術ですので、子ども相手には特に必要になります。スリルがあるとハラハラしながら聴きます。サスペンスがあると最後どうなるかドキドキしながら聴きます。ミステリーがあるとナゼナゼとなぞなぞ状態になります。そしてカタルシスがあると、ワクワクした胸がスーッとするので。

集中力5分と言われる子どもを「ハラハラドキドキ、ナゼナゼワクワク」という状態にすると、少しは静かに聞きます。もちろん、この話の技術は、おとな相手の礼拝説教でも時々使っています。眠らないようにです。それでも眠る人は、よほど疲れているので、文字通り安息日になっています。今は感染対策の礼拝で、始めから原稿を渡しているので、「ハラハラドキドキ、ナゼナゼワクワク」が起こりません。おもしろくないです。だから書いてないことを言いたがって説教が長くなることがあります。読まないで話を聴く人には、多少スリルとサスペンスがあるかもしれません。しかし、せっかく書いたのに読まないというのも、おもしろくないですね。

II ダビデとゴリアト

さて、ダビデとゴリアトの話ですが、スリルとサスペンスがあり、ミステリーがあり、そしてカタルシスがあります。ただ、何回も聞いている子供にはサスペンスがありません。「大男のゴリアトが、大きな刀と槍を持って近づいて来ました。さあ、少年ダビデはどうなるでしょうか。」「知ってる一つ」と途中で言う子もいます。初めて聞く子供には「衝撃の結末」があるように話すことができます。

2年前、教師研修会でミステリーについて話した時、その日の教会学校のメッセージが「ダビデとゴリアト」でしたので、それを題材に講義しました。聖書箇所は、きょう読んだくらい長い箇所がカリキュラムに乗っていましたが、子供相手には短くしなくてはなりません。

そこで、その日のメッセージを担当した先生に、なぜその箇所を選んだか聞きましたら、二ヶ所あって迷ったけど、こちらにしたという答でした。今こうして大人の礼拝で30分も話せば、二ヶ所とも扱えますが、子供相手の5～10分ではどちらか選ばなくてはなりません。

その先生が選んだのは、45-47節。ダビデがゴリアトに言うセリフ。「お前は剣や槍や投げ槍でわたしに向かって来るが、わたしはお前が挑戦したイスラエルの戦列の神、万軍の主の名によってお前に立ち向かう。・・・この戦いは主のものだ。主はお前たちを我々の手に渡される。」

もう一つ迷ったというのが34-36節。ダビデがサウル王に言うセリフ。「僕は、父の羊を飼う者です。獅子や熊が出て来て群れの中から羊を奪い取ることがあります。そのときには、追いかけて打ちかかり、その口から羊を取り戻します。・・・あの無割礼のペリシテ人もそれらの獣の一匹のようにしてみせましょう。」

45-47節が正解であるのは、ダビデが勝てそうもないゴリアトに勝てたのは、神様が付いていたからです。だから、迷ったけどこっちにしたというのは、聖書の教え、教理を語るという点から正解なのです。神学的に正解なのです。

しかし、なぜ迷ったか、十分訳があるので、次の年に話そうと思っていました。45-47節は「この戦いは主のものだ。」とダビデが言ったように、ゴリアトの相手をするのは「万軍の主なる神」です。そうすると、ダビデとゴリアトではなくて、主なる神とゴリアトの戦いになります。これはもう、どちらが勝つかハッキリしています。神に勝てる人間はいません。でも、これだけだと当たり前すぎて、「神様がついてたからダビデはゴリアトに勝てました。オシマイ。」となります。これでは、スリルとサスペンスがありません。ミステリーもありません。「この戦いは主のものだ」というのは見えないことなので、神秘的でないといけなのです。本当は神様が相手だというのは、ミステリーでないといけなのです。

Ⅲ 少年が大男に勝つ

じゃあ34-36節を採用したらどうなるでしょうか。「僕は、父の羊を飼う者です。獅子や熊が出て来て群れの中から羊を奪い取ることがあります。そのときには、追いかけて打ちかかり、その口から羊を取り戻します。・・・あの無割礼のペリシテ人もそれらの獣の一匹のようにしてみせましょう。」

これなら、ダビデがゴリアトに立ち向かうことになります。さあ、どうなるでしょうかと、スリルもサスペンスも出てきます。そしてゴリアトの武器に対するダビデの武器が、またミステリーです。大男の軍人は大きな刀と大きな槍、羊飼いの少年は杖と子供の遊びみたいな石投げひもが武器です。ゴリアトはよろいとかぶとを付けていましたが、ダビデはサウル王のよろいは重たいからと、無防備です。さあ、どう見ても、羊飼いの少年が大男の軍人に勝てそうな気はしないのですが・・・。

しかし、ゴリアトは「俺は犬か」と、少年の杖と石投げひもをなめていました。両者接近してダビデが石を投げました！すると、なんとゴリアトはドドドーっと倒れてしまったのです。大男が倒れたのですから、石投げひものスピードはプロ野球のピッチャーみたいに時速150キロくらいあったのでしょう。ピッチャーの危険球は一発退場です。バッターがヘルメットをかぶっていなかったら死んでいたかもしれないからです。またダビデは、コントロールバツグンでした。石は、よろいとヘルメットの間隙の、ひたいに命中したのです！

つまり、34-36節を採用したらハラハラドキドキワクワクするのです。「僕は、父の羊を飼う者です。獅子や熊が出て来て群れの中から羊を奪い取ることがあります。そのときには、追いかけて打ちかかり、その口から羊を取り戻します。」ええー！？ライオンやクマにも勝てるのか。それならゴリアトにも勝てるかな、可能性はあるかな、となります。

そうすると、ゴリアトと戦ったのは少年ダビデという、人間が表舞台に登場します。そして、小さい方が大きい方に勝ったというのが、胸のすくような快感になります。威張り散らす強いやつに勝ったと、胸がスーッとします。これがカタルシスです。

相撲でも、小さい力士と大きい力士が闘う時、小さい力士を応援するでしょう。大きい力士の親戚でもなければですが。大きい方が勝つのは当たり前です。重さは力だからです。それでは力学どおりでおもしろくありません。相撲界は近年ますます大型化してケガの絶えない状態です。小さい力士が挑戦するのは危険でもあります。

ハラハラしながら、ケガなく勝った時にはワーッと拍手カッサイです。それは観ている方も小さい者ですから、よけい快感になるのです。政治・経済・社会がグローバル化する中で、人間は小さな存在です。大きな相手にストレスの溜まる生活や仕事をしています。小さい方が勝ったというのは、ストレス解消の快感を与えるカタルシスになるのです。

つまり、少年ダビデが大男のゴリアトに勝ったということには、胸のすくような心の浄化、カタルシスがあるのです。これが、どうなるか分かっている、何べんでも聴きたくなる理由です。聖書物語はギリシャ悲劇や日本の歌舞伎のように、最後どうなるか分かっている、何べんでも味わいたくなる理由があります。それがカタルシス、快感です。

だから、どっちの聖書箇所を選ぼうか迷ったことには訳がありました。ダビデが言ったように「この戦いは主の戦いだ」というのは正解ですが、それが前面に出てくるとミステリーがありません。見えない神が表舞台に出てくると、ミステリーがなくなります。そしてカタルシスもなくなります。勝てそうもない相手に勝ったという実感がないからです。

IV 私たちの戦いは私たちがするもの

私たちの戦いは、やはり、私という人間が闘わなければなりません。立ちふさがる大きな壁を、自分が乗り越えなくてはなりません。そして乗り越えることができた時、「本当に主が共にいてくださった」と、涙で心が洗われ、深い信仰的快感が与えられます。

政治経済・疫病・気候変動・戦争といった大きな相手もいますが、もっと大きな闘いは見えない霊的闘いです。罪と死と悪魔が相手です。私たちは必ず死ぬ定めにありますから、罪と死と悪魔は人間の手には負えません。大きな恐い相手です。しかし、勝てるとしたら、クリスチャンの人生にはスリルとサスペンスがあります。しかも必ず勝てるとした

ら、ミステリーがあるのです。私の内にはキリストがおられるという、秘密兵器があるのです。

「信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです。」（ヘブライ11：1） だから、信仰とは、究極のカタルシスを望んでいることです。「死に打ち勝った！ 悪魔に勝利した！」という快感です。

だが、それはまだ見ていない事実です。まだ見ていないけれども、勝利を確認することができるのはなぜか。罪人の救い主、イエス・キリストの復活が事実だからです。キリストの十字架と復活は、罪と死と悪魔に打ち勝ちました。だから、キリストに結ばれているなら勝利を確信することができます。キリストの復活と自分の復活を信じて、勝利を確信しましょう。死ぬ時だけでなく、生きている今も。